



希望の

ひかり

第28回

市が東北誘致に取り組んでいる「国際リニアコライダー（以下、ILC）計画」について最新情報をお届けします

市議会の「ILC誘致及び国際科学技術研究圏域調査特別委員会」（渡辺忠委員長）は、2月2日、3日の2日間、高エネルギー加速器研究機構（KEK、鈴木厚人機構長）などを訪問しました。今回は、この視察と盛岡市で開催された第2回加速器関連産業参加セミナーについてお知らせします。

ILCを核としたまちづくりを学んだ市議会

この視察では、KEKのほか、千葉県柏市で公民学連携によるまちづくりの拠点、柏の葉アーバンデザインセン



KEK職員の説明に聞き入る視察団

ター（UDCK、出口敦セン
ター長）などを訪問。委員13
人がILCや国際学術研究都
市への理解を深めました。
KEKでは、ILCの加速
器の心臓部である「超電導加
速空洞」の製造・試験施設を
見学。UDCKでは、環境共
生型の国際的なまちづくりを
進めるための取り組みとして、
住民や学生が学び合うコミュ
ニティの育成や地域全体のエ
ネルギー管理、カーシェアリ
ングなどの説明を受けました。
このほか、未来のまちの仕
組みやライフスタイルを仮想
体験できる「柏の葉スマート

シティミュージアム」を見学。
街のあらゆるデータを分析し
て、安心・快適な暮らしを支
える「スマートシティ」の仕
組みを学びました。

加速器関連産業参加への可能性

県などが主催する第2回加
速器関連産業参加セミナーが
2月16日、盛岡市内のホテル
で開催されました。県内の企
業や研究機関などから約15
0人が参加。ILCを契機と
した加速器関連産業への参加
に向けて現状や課題に理解を
深めました。

同セミナーでは、KEKリ
ニアコライダー計画推進室の
山本明室長と宮原正信特別技
術専門職が講演。山本氏は
「ILC全体準備状況」と題
し、ILCに必要な先端技術
の開発状況や超電導加速空洞



セミナーでの意見交換の様子

の製造などについて解説しま
した。同空洞の製造において
は、機械加工から表面処理、
組み立てまでの過程で企業の
参加が可能で、その技術は転
用できることを訴えました。

宮原氏は「ILC関連CF
S（土木・施設工事）の現状
と課題」と題し、トンネルの
設計や建設スケジュール、必
要な工事などについて説明。

今後の課題として、北上山地
に合わせた最適な設計や国際
的な合意形成などの必要性を
強調しました。政府の誘致表
明に向けては「建設コストと
スケジュールを徹底的に検証
し、最終案をまとめることが
必要」と述べました。

両氏の講演後、いわて産業
振興センターの大森健一科
学・技術コーディネーターが

「加速器製造に関わる要素技
術の分析および県内企業の加
速器産業への参加可能性調査
事業」について報告。アン
ケートの結果から「県内企業
は、参加に対して、安定した
発注量や技術指導などの条件
を求めている」と解説し、加
速器の組み立てには、さまざ
まな業種に参加の可能性があ
ることを紹介しました。

このほか、県が「いわて加
速器関連産業研究会」（仮称）
の設立を提案。同研究会は27
年度に発足し、セミナーや視
察、研究開発支援などを展開
していく予定です。

いわて加速器関連産業研究会（仮称）の 会員を募集しています

県では「いわて加速器関連産業研究会」（仮称）の会員
を募集しています。この組織は、加速器関連産業に係る
産学官の交流および連携の場の創出などを目的として
います。詳しくはお問い合わせください。

■問い合わせ・申込先＝県政策地域部科学ILC推進室
（☎ 019-629-5203）